

～ 子供に関わるすべての人へ～
家庭教育ニュースレター

家族の絆

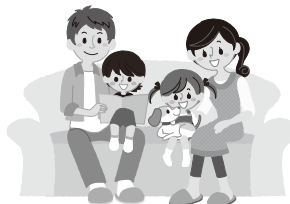
2022年 春 = Vol.62 =

Contents

- 絵本好き・読書好きのお子さんに
育てるために
- コロナ禍の子どものこころ
ー コロナ×こどもアンケート・全国調査よりー
- 教職員が子供たちと向き合う教育環境づくりのために…
- 5つの実践目標リレーコラム「イチャリパチョーデー」
- 「夢はぐくむ教育のまち」西宮市教育大綱を改定しました！

バックナンバーはこちらからご覧いただけます↑

発行/西宮市教育委員会 問合せ先/地域学校協働課 TEL0798-35-3868



絵本好き・読書好きの お子さんに育てるために



お子さんに絵本をいっぱい読んであげたいけど、ぴったりの絵本を探すのって難しいですね。絵本好き、読書好きのお子さんにも育ててほしいものですね。今回は、親子の絵本の読み聞かせ支援を目指して西宮市と NTT グループで取り組んでいる「生涯学習推進のための読書振興などに関する共同研究協定」の内容について、NTTの小林哲生さんにお話をお聞きしました。

■絵本の読み聞かせ効果

絵本の読み聞かせは、赤ちゃんのことばの発達に非常によいと言われています。その理由は、絵本には、多様な語彙や複雑な文が出現し、それがことばの発達を支えているからです。絵本を読んでいると、いろんな登場人物が出てきて、様々な出来事が起こりますよね。そのとき、普段の生活ではあまり使わない語彙が多く出てきます。絵本の文も、普段の発話よりも複雑な構造をしていたり、省略しがちな格助詞（が、を）がしっかりと残っていたりします。こうした特徴が豊富な言語インプットとなり、ことばの成長を後押しします。

絵本の読み聞かせは、お子さんの将来の能力にも影響します。シカゴ大学の調査では、1～2歳のときに絵本を高頻度で読み聞かせてもらった子ほど、小学校高学年になったときの文章読解力がより高く、読書意欲もより旺盛だったことが報告されています。幼いときに絵本をたくさん読んであげることが、将来、読書好きのお子さんになる可能性を高める近道なのかもしれませんね。

■個別最適化した絵本の作成

こうした科学的知見を踏まえて、親子の絵本読みを支援し読書好きのお子さんが増えるようにと、2021年より、西宮市とNTTグループで共同研究を進めています。1つの試みは、西宮市在住の1歳児を対象に、お子さんの興味と発達に合わせて1冊ずつ作成する「パーソナルちいこえほん」の配布です。1歳半健診の際に配布される案内に基づいて、専用サイト上に、お子さんの名前や好きなもの、現在言える単語を入力します。すると、お子さんの興味に合わせたストー

リー上に、これから発話できる語を推定してその絵を入れ込んでいきます。主人公はお子さん。本文と表紙に名前が出てきます。こうした個別最適化した絵本を2週間ほどで自宅にお届けします。現在の評判は上々。質問紙調査を通じて効果を検証中です。

■AIによる絵本推薦

図書館（中央・北口・鳴尾）には、NTTで開発したAI絵本検索システム「ぴたりえ」を設置しています。お子さんに読ませたい内容を入力すると、文の難易度を推定した上で、興味と発達に合った絵本を推薦します。楽しく簡単にいろんな絵本と出会う工夫がされたシステムとなっています。ロボットの案内でお子さん自らが絵本を探す「ぴたりえタッチ」も大人気です。画面に表紙を提示し、読みたいものをタッチして選んでもらいます。すると、絵の好みをも推定して、おすすめの本を提示します。2～3歳から操作できますので、ぜひチャレンジしてみてください。

こうした試みは全国でも珍しい画期的な取り組みです。お



子さんひとりひとりの特徴を考慮した絵本の作成や推薦により、絵本をよりいっそう好きになってもらい、読書好きのお子さんがますます増えることを願っています。

こばやし てっせい
小林 哲生

NTTコミュニケーション科学基礎研究所 上席特別研究員

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）
専門は発達心理学。名古屋大学客員教授、日本学術会議連携
会員。著書に「0～3さいはじめてのことば」（小学館）、監
修絵本に「あかちゃんごおしゃべりえほん」など（主婦の友社）



コロナ禍の子どものこころ

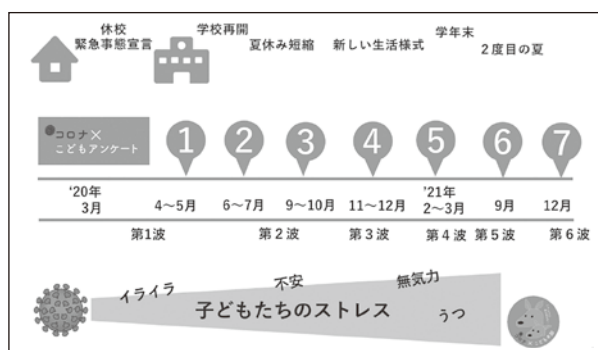
—コロナ×子どもアンケート・全国調査より—



なかなか終わりが見えないコロナ禍... 外出自粛や休校、マスク着用、行事中止など、大人だけでなく子供たちも大きな影響を受けています。そんな子供達に対して、私達大人は何ができるのでしょうか。今回はアンケート結果を交えながら、保護者としての子供への関わり方も含めて、小児科専門医の山口有紗先生に「コロナ禍の子どものこころ」について、お聞きしました。

新型コロナウイルス感染症により、子どもたちの生活は劇的に変化しました。2020年3月の突然の休校と緊急事態宣言以降、定期的に流行の波が続き、子どもたちはマスクでの生活や楽しみにしていたことへの制限と共に生活しています。流行の収束が見えないなか、大人と同様に、子どもたちにもストレスが募っています。

私たち「コロナ×子ども本部」は、2020年4月から2021年12月までの間に、合計7回の「コロナ×子どもアンケート」を実施し、コロナ禍における子どものアドボカシー、参画をはじめとする権利擁護を行なってきました。これまで、のべ約4万人以上の子どもと保護者が回答し、集計・解析された結果は、子どもや保護者、子どもを支える教育機関や行政などに報告されました。今回紹介するのは結果のごく一部です。ぜひ「コロナ×子ども本部」のHPなどから、子どもたちの声に触れてほしいです。



■子どもの生活の変化

生活の変化、特に日常のルーチンの変化は子どもにとって大きなストレスになります。2020年春の第1回調査では、多くの子どもが、コロナ前と比べて就寝時間が乱れていると答えました。学校再開後、秋の第3回調査でも、小学校高学年以上

の3割に就寝時刻の遅れや乱れがみられ、影響が続いていることがわかりました。同じ第3回の調査で、睡眠で困っていることについて尋ねると、目覚めに時間がかかる、日中眠い、週末に普段より多く寝てしまう、と答える子どもが多く、朝起きられなくて登校できないことがある子どもも一定数いることが明らかになりました。

勉強以外で、テレビ・ゲーム、スマホの画面を見ていた時間（スクリーンタイム）について尋ねると、休校中の第1回調査では、半数以上の子どもが増えたと回答しました。特に、高学年になるほど、その傾向が強くなりました。第3回の調査でも、4割以上の子どもが1時間以上の増加があると答えており、睡眠同様、影響が続いていることが示唆されました。

■子どものメンタルヘルスへの影響

家族や友人との関係性の中で育っていく子どもたちにとっては、ステイホームやソーシャル・ディスタンスによる孤立が心の健康に与える影響は大きいです。2021年秋の第6回調査では、「コロナのことを考えると嫌な気持ちになる」子どもは38%、「すぐにイライラする」は28%、「最近集中できない」は26%、「寝つけない・夜目が覚める」は20%で、いずれか1つ以上のストレス反応を選択した子どもは全体の70%でした。これは初回の調査から、一貫して高い数字で推移しています。第6回調査では学校に行きたくないと感じている子どもは全体の38%にもなりました。自由記載には、感染することが怖いことや、マスクの負担、楽しみにしていた行事や友達との交流が奪われたことのつらさなどが語られ、強いストレスの遷延が、子どもたちに影響を与え続けていることが示唆されます。

子どものメンタルヘルスの不調は、成人に比べてイライラ、不登校、いわゆる非行や問題行動などとして現れやすいです。また、こうした心身の不調を感じているのは自分だけだと思っている子どもも多いです。周りの大人は、このようなストレス状況では不調が出るのは当然のことであること、一緒にできることを考えたいと伝えることができます。

■子どものリソース

子どもたちは力のある存在であり、つらい状況にあっても回復する力を持っています。子どもの回復を支えるものとしては、保護的なあたたかい大人との関係性、社会とのつながり、本人の認知や行動のスキル、日々のルーチンなどがありますが、皮肉にもこうしたリソースはコロナ禍で大きく変化しました。

第5回のアンケートでは、半数以上の家庭で、親子で過ごす時間が増加しましたが、その捉えかたは家庭によって様々であることが示されました。保護者のメンタルヘルスに注目すると、同じく第5回調査で、過半数の保護者が、心に何らかの負担があり、深刻な心の状態の恐れがある保護者も15%程度いることがわかりました。保護者のメンタルヘルスの悪化は、子どもとの関わりに影響を及ぼす可能性があります。第3回調査では、直近の1ヶ月で、家で叩かれたと答えた子どもは11%、怒鳴られたと答えた子どもが25%でした。家庭内でのストレスを家庭内で抱えすぎないように、まずは保護者が安心できることが必要です。

第5回調査では、コロナ前と比較して、先生や大人に話したり相談したりしづらくなった子どもは約半数にのぼりました。同じ調査で家族が利用できる子育て資源について聞くと、私的にも、公的にも、相談できる・預けられる資源が減ったと回答した保護者が多くみられました。家庭訪問やオンラインなどいろいろな方法を工夫して、子ども・家族が頼れる場所を創っていくことが求められます。

■おわりに

「学校のコロナ対策に参加したい。決められたことしかしないのはおかしい」

「大人だけで色々議論しないでこどもの気持ちも聞いてください」

アンケートに寄せられた子どもの声です。第2回の調査で「こどものことを決めるとき、大人たちはこどもの気持ちや考えをよく聞いていると思いますか？」と尋ねると、中高生の約4割が「あまり・全くそう思わない」と回答しました。

子どもの気持ちや意見を受け止め、社会に届け、子どもに返していく「子どもの参画の権利」「子どものアドボカシー」という理念が日本でも浸透してきました。子どもの声に耳を傾け、それを子どもに還元していくために、大人には何ができるでしょうか。いま一度、そして何度でも考えたい。

■過去の報告書はこちらから

https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/index.html#3tab
LINEでのプッシュ型情報発信もしています。

友達追加はこちらから



やまぐち

ありさ

山口 有紗

小児科専門医・小児精神神経学会認定医

国立国際医療研究センター病院、東京大学医学部附属病院小児科、茅ヶ崎市立病院小児科、国立成育医療研究センターこころの診療部や児童相談所などで子ども・家族の診療に従事してきた。2020年より国立成育医療研究センター「コロナ×こども本部」に参画し、アンケートの作成、子どもや家族へのLINEでの情報発信、子ども会議の企画などに協力。現在は、子どもの虐待防止センターに所属し、地域の児童相談所や一時保護所での相談業務などを行っている。国立成育医療研究センターこころの診療部臨床研究員、ジョンスホプキンス大学公衆衛生修士課程在学中。



教職員が子供たちと向き合う教育環境づくりのために…

教育委員会では学校園における働き方を見直し、教職員のワーク・ライフ・バランスの保持や子供と向き合う時間を確保するために、勤務時間の上限を定めた規則や方針に基づき、勤務時間の適正化に向けた取組を推進しています。令和3年度より各学校園の教職員の勤務時間を把握するためのシステム導入や小学校・義務教育学校で欠席連絡アプリを導入しました。令和4年度からは、中学校でも欠席連絡アプリを導入します。

また、全ての学校で勤務時間外の電話について、自動音声案内を導入する等、効果的な教育活動ができる環境づくりに努めています。保護者、地域の皆さまのご理解をよろしくお願いいたします。(教育職員課)

思いやりのある西宮っ子を育てる

5つの実践目標 リレーコラム

平成23年に西宮市家庭教育振興市民会議が新たに提唱した家庭教育の「5つの実践目標」をテーマとして、家庭教育振興市民会議の委員や家庭教育関係者などに自身の体験や思いを投稿していただくリレーコラム。

「5つの実践目標」

- ・育てよう 優しい心と がんばる力
- ・声かけよう おはよう ありがとう ごめんなさい
- ・見守ろう よその子 我が子 区別なく
- ・習慣づけよう 早寝 早起き 朝ごはん
- ・外に出よう 元気に遊んで 友だちいっぱい

今号は、5つの実践目標の中から「見守ろう よその子 我が子 区別なく」をテーマに、「元 西宮市小学校教員の仲島正教さん」にお話をいただきました。

イチャリバチョーデー

「イチャリバチョーデー」とは「一度出逢えば皆兄弟」という「温かいつながり」を意味する沖縄の方言です。

私はこの言葉が大好きで仕事柄「一度出逢えば皆教え子」と思っています。担任した子の兄弟もそうだし、学級や学年が違う子も「皆教え子」という認識です。学校外でも同じです。同じマンションに住んでいる子も、子ども会で出逢った子も、皆私の教え子です。最近では歯医者さんの受付の学生も私の教え子になりました。ずいぶん勝手にかなり一方的です（笑）。でも私はそんな皆が可愛くてしかたがないのです。

P T Aの役員さんからの話です。学校に行くと出逢った子どもたちに「こんにちは」と声をかけます。すると翌日は「あっ〇〇さんのおばちゃんや」「おっちゃんこんにちは」と子どもたちから声がかかりま

す。なんだか学校の子も「皆我が子」のように思え、この子たちのために頑張りたいと元気が湧いてくるのです。

青愛協の人からはこんな話です。日々の活動を通して、子どもたちを知れば知るほど愛おしくなり、「頑張れ〜」といつも応援するようになっていました。地域の子は「皆うちの子」なのです。

子どもたちは、そんな大人たちの愛を受けながら、優しく強く、健やかに成長していくのです。

「見守ろう よその子 我が子 区別なく」

「イチャリバチョーデー 一度出逢えば皆兄弟」

なかしま まさのり

仲島 正教

元 西宮市小学校教員

小学校教員、市教委指導主事を長年勤めた後は「教育サポーター」として、全国各地で「学級づくり」「人権教育」「子育て」「青少年育成」等の講演活動をしている。2016年「西宮市教育功労者表彰」を受ける。



「夢はぐくむ教育のまち」

西宮市教育大綱を改定しました！

西宮市は、平成27年（2015年）に改正された地方教育行政法に基づき、市の教育に関する理念や方針を示すものとして、平成28年（2016年）11月に西宮市教育大綱を策定しました。その後、学習指導要領が改定されたことなどから、その趣旨を踏まえるとともに、子育てを地域全体で温かく支えていくこと、一人ひとりを大切にしながら、未来の西宮、未来の世界に向かって生きる人間を育てるまちをめざして、令和3年（2021年）3月に西宮市教育大綱を改定しました。

改定に込めた理念の実現に向けた取り組みを通じて、文教住宅都市・西宮らしい公教育や、生涯学習のあり方の実現を目指しています。

改定で追加した
大切な要素

【改定のポイント】

- ① 知・徳・体（確かな学力、豊かな心、健康・体力）のバランスのとれた学校教育
- ② 社会全体で子供を育てる、子供も社会の一員であることを意識
- ③ 生涯学習の機会を提供し、子供も大人も共に学び、豊かな人生を送ることができるまち

